

古典の主要年中行事

一月・睦月つき

四方拝ほうほう（元日）天皇が清涼殿せいりやうだんで東庭で四方の神々と代々の山陵を遙拝し、国家安泰を祈る。

朝拜あそら（元日）朝賀あそらとも。大極殿だいごくだんで群臣が天皇に年賀を申し上げる。

小朝拜せうあそら（元日）略式の朝拜。清涼殿せいりやうだんで東庭で親王・殿上人が天皇に年賀を申し上げる。

元日の節会ねつゑ（元日）小朝拜の後、豊樂院とよがくゐん（後に、紫宸殿むらさきみかど）で天皇が群臣に宴を賜る。

吉方詣きちかみ（元日）吉方（恵方）にあたる神社に参詣して祈る。

朝觀行幸あそらみゆき（二日か吉日）天皇が上皇や皇太后の御所に行幸して拝賀する。

二宮にのみやの大饗たいけい（二日）群臣が中宮・東宮とうきやうの二宮に拝賀し、宴を賜る。

臨時客りんじやく（二日）摂関家や大臣家で親王や公卿きやうなどを招いて宴を催す。

白馬しろうまの節会ねつゑ（七日）天皇御覽のもと、紫宸殿むらさきみかどに南庭で左右の馬寮うまやしやうの白馬を引き回し、宴を賜る。

七種しちしゆの粥かゆ（七日）春の七草を入れた粥を食する。室町時代以降の風習。

女叙位によじゆゐ（八日）中務省なかつむせが司り、内親王以下の女子を五位以上に叙する。

踏歌たふた 十四日は男踏歌、十六日は女踏歌。足を踏みならして歌舞し、宮中から諸所を巡る。

射礼しやうらい（十七日）親王以下五位以上の者、六衛府むつゐふの官人などが、建礼門けんれいもんいで弓を射る。

月日は陰曆。
読みは歴史のかなづかいによる。

賭弓たそり（十八日）天皇御覽のもと、賭かけ物が出されて、近衛府このゑ・兵衛府ひやうゑの舍人とらひが弓の術を競う。

内宴ないえん（二十日ごろ）天皇が仁寿殿じゆうだんで宴を賜る。女楽を奏し、詩文を作る。

子の日の遊びこひのあそび（上の子の日）野に出て小松を引き、若菜を摘み、宴遊して長寿を祈る。

卯杖うさぎ（上の卯の日）桃や梅などを束ねて五色の糸を巻いた杖を六衛府むつゐふから朝廷に献上する。

卯榎うすゑ（上の卯の日）桃の木などで作り、五色の糸を垂らした榎を糸所いとどころから朝廷に献上する。

皇召みかづきの除目のぞめ（不定日）春の除目とも。地方官の国主くにぬし（受領）を任命する。

祈年祭しねんさい（四日）神社官しんじやくんや国司庁くにすけのしやうで、五穀豊穰ごこくほうじやうを祈り、諸社に奉幣ほうへいする。

列見れつけん（十一日）公卿こうきやうが太政官たいていに六位以下の昇進候補者しやうしんこうほしやを接見する。

涅槃ねはん会かい（十五日）釈迦しやの入寂にゅうじやく（死去）した日ひをしのんで法会ほふゑを行う。

釈しやく奠てん（上の丁ていの日の日）大学寮だいがくしやうと諸国の官学くわんがくで孔子とその弟子を祭る。八月の同日にも。

季きの御読経ごよみ（不定日）宮中で大般若だいはんにや経を転読てんよくさせ、国家・天皇の安泰を祈る。八月にも。

三月・弥生やよひ

曲水宴まがみづのえん（三日）水流に浮かべた盃が流れてくまで、に詩歌を詠じて酒を飲む宴。

上巳じやうしの祓はらへ（上の巳の日）人形にんがたに汚れを移して水に流し、厄災を取り除く。雛祭ひなまつりのもと。

石清水いしづみの臨時りんじの祭まつり（中の午うまの日）石清水八幡宮いしづみはちまんの例祭れいさい。南祭とも。

花鎮はなぢんめの祭まつり（不定日）花の飛び散るのを鎮め、疫病を防ぐ祭。鎮花祭ぢんがまつり。近世は十八日。

四月しがつ・卯月うづき

衣更ころもへ（一日）衣装や調度品などを夏の装いに改める。

孟夏もうげ句く（一日）夏の初めに天皇が群臣を召して宴を賜る。二孟句にもうげのの一つ。↓十月孟冬句もうとうく。

擬階奏ぎかひそう（七日）二月の列見で選考した者の位階いゐを改めて奏上する。

灌仏くわんぶつ会かい（八日）釈迦しやの誕生を祝い、釈迦像しやがざうに香水かうすいを注ぎ、法会ほふゑを行う。

斎院御禊さいゐんぎ（中の午うまの日）賀茂かものの祭まつりに先立ち、斎院さいゐんが賀茂川かものがわで禊ぎをする。

賀茂かものの祭まつり（中の酉とりの日）京都上賀茂・下賀茂神社かものじんじやの祭礼まつり。斎院一行が行列を整えて参拜する。

五月ごがつ・皐月さつき

菖蒲あやむす献上けんじやう（三日）五日の節会ねつゑで用いる菖蒲あやむすなどを盛った輿こしを六衛府むつゐふの官人が献上する。

端午節会たんごねつゑ（五日）菖蒲などを軒のきに飾り、邪氣じやきを祓はらう。宮中では騎射きしやや宴がある。

賀茂の競べ馬(五日) 上賀茂神社で神事として馬を競わせる。

六月―水無月づみな

祇園会ぎんぐわん(七日) 京都八坂の神社の、悪霊を鎮めて崇りをふせぐ祭礼。七日間。

大祓詔おほひらきのみことぎ(三十日) 群臣が朱雀門すざくもんに集まり、中臣なかとみ氏の祝詞のりとにより、半年間の罪や汚れを祓らう。十二月も。

水無月みづなづき被はらはらはらはへへ(三十日) 夏越なつこしの祓はらへとも。民間で行う大祓詔おほひらきのみことぎへ。茅かやの輪わをくぐつたりする。

七月―文月ふみ

乞巧奠きこうだん(七日) 七夕とも。牽牛せんぎゅう・織女おりむすめの伝説に拠り、手芸や和歌の上達を祈る。

盂蘭盆会うらんぼん(十五日) 供え物をして祖先の霊を供養する。宮中では、天皇が清涼殿せいりやうでんで礼拝。

相撲まがまがの節ふし(不定日) 諸国の力士に、天皇御覧みまわのもと、内取うちとり(稽古・召合めいあはせ(勝負)をさせる。

八月―葉月はづき

定考じやうかう(十一日) 上皇を憚おそはかり字を逆に読む。四月の擬階奏ぎたいそういでて選出した者の昇進を決める。

石清水放生会いししみずはなはな(十五日) 石清水八幡宮いししみずやっぴんぐうの例祭。殺生ころしを禁じる考え方から生き物を放す。

月の宴つきのみ(十五日) 中秋の名月をめぐる。宮中では清涼殿せいりやうでんで宴を催す。

駒牽こまひき(十五日) 天皇が紫宸殿むらさきみかどで、諸国から献上された馬を御覧になる。

積奠せきだん・しんしん ↓二月上の丁つひの日の
司召つかさどとも。京官を任命する。

除目じゆもくとも。京官を任命する。

季きの御読経ごよみ ↓二月 不定日

九月―長月なが

重陽宴ちゆうやうのえ(九日) 菊の宴とも。菊酒を飲み、菊の露で身をぬぐって災いを祓らう。長寿を祈る。

伊勢例幣いせのれいへい(十一日) 朝廷から神嘗祭かみかひに幣物へいぶつを奉納する使いを送る。

後の月見ごのつきみ(十三日) 陰曆八月十五日の月見
神嘗祭かみかひ(十六日) 天皇がその年の新穀で造つた神酒と神饌かみかひとを伊勢いせ神宮に奉納する。

十月―神無月かんな

孟冬句もうとうのく(一日) 冬の初めに天皇が群臣を召して宴を賜る。二孟句にもうとうのくの一つ。↓四月
孟夏句もうげつのく

衣替いかへ(一日) 衣装や調度品などを冬の装いに改める。

弓場始ゆまらじ(五日) 射場始ゆまらじとも。天皇が弓場ゆまに出御し、諸臣の賭弓ゆまを御覧になる。

残菊宴ざんきくのみ(五日) 咲き残った菊をめぐる。宮中で重陽宴ちゆうやうのえがない場合は、その代わりとなる。

維摩会ゐま(十日) 興福寺で藤原鎌足ふじのあしの忌日きびの十六日まで維摩經ゐまのきやうを講じる法会を行う。

亥子餅かいしもち(上の亥うの日)。万病を除き、子孫繁栄を願って亥子餅かいしもちを食する。

十一月―霜月しも
相嘗祭あひかひ(上の卯うの日) 新嘗祭あひかひに

先立ち、新穀を神々に供え、その相伴をする。

五節ごせつ(中の丑うしの日・辰たつの日) 豊よの明あかりの節会せつかいにおける、舞姫の舞に至る四日間の行事の総称。

帳台試ちやうだいし(中の丑うしの日) 五節ごせつの一日目の儀式。天皇が常寧殿じやうねいどのの帳台の前で舞姫の試演を御覧になる。

御前試ごぜんし(中の寅とらの日) 五節ごせつの二日目の儀式。天皇が清涼殿せいりやうでんで舞姫の試演を御覧になる。

童女御覧どうにょみらん(中の卯うの日) 五節ごせつの三日目の儀式。天皇が清涼殿せいりやうでんで舞姫の世話をする童女を御覧になる。

新嘗祭あひかひ(中の卯うの日) 天皇が新穀を神々に供えてその相伴をし、収穫を感謝する。

豊よの明あかりの節会せつかい(中の辰たつの日) 新嘗祭あひかひの翌日に天皇が群臣に新穀を賜り宴をし、五節ごせつの舞がある。

賀茂かまの臨時りんじの祭まつり(下の酉うしの日) 賀茂神社の例祭。四月の例祭に対していう。

十二月―師走しすい

御仏名ごぶつな(十九・二十一日) 清涼殿せいりやうでんで罪業消滅のため、諸仏の名を唱えて読経する。

大祓詔おほひらきのみことぎへ ↓六月三十日
荷前かきまへ(年末吉日) 諸国から貢がれた初穂を山陵などに奉る。

内侍所御神楽うちしやくごみかぐら(不定日) 賢所けんじよ御神楽ごみかぐらかきとも。宮中内侍所で庭燎ていりやうは焚いて行う神楽。

追儼おひかみ(晦日) 鬼遣おにやらひととも。一年間の邪気である鬼を、桃の弓と葦あしの矢で追い払う。